

学校コード F106310101234

注3

設置年度 令和 5年度

計画の区分： 大学の設置

注1

認可

注2

電動モビリティシステム専門職大学 電気自動車システム工学部 電気自動車システム工学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正後大学設置基準適用)

学校法人赤門学院
令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	事務局総務課
職名・氏名	ソウモカチヨウ コセトシヒロ 総務課長・小関俊宏
電話番号	0238-88-7377
(夜間)	090-2276-6353
e-mail	soumuka@mobility.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

電気自動車システム工学部

＜電気自動車システム工学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教育研究実施組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	27
7. その他全般的事項	28

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人赤門学院

(2) 大学名

電動モビリティシステム専門職大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒999-0602

山形県西置賜郡飯豊町大字萩生1725-2

(〒980-0852 宮城県仙台市青葉区川内川前丁61)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(コクブン カツミョウ) 國分 活妙 (平成25年2月)		
学長	(シミズ ヒロシ) 清水 浩 (令和5年4月)		
学部長	(タカハシ ヒサシ) 高橋 久 (令和5年4月)		
学科長等	(タカハシ ヒサシ) 高橋 久 (令和5年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
電気自動車システム工学部	工学関係	4年	40人	2年次	160人		
電気自動車システム工学科				0人			
電気自動車システム工学士(専門職)				0人			
				3年次			
				4年次			
				0人			

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1)又は(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	40人				
志願者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	5				
受験者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	5	0.07倍		0.07倍	
合格者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	5				
B 入学者数	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	3				
入学定員超過率 B/A													0.07				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	
	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
2年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
			[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	
			()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
3年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	
					()	()	()	()	()	()	()	()	
4年次							-	-	-	-	-	-	
							[]	[]	[]	[]	[]	[]	
							()	()	()	()	()	()	
計											3		
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	
	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	3人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合計		0人		0人	0人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<電気自動車システム工学部 電気自動車システム工学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			基幹教員等の配置									
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	(助手を除く兼任) (兼任上)				
基礎科目	物理学Ⅰ	1①	2			1									
	化学基礎	1①②	2			1									
	微分積分学	1①②	2			1									
	線形代数学	1①②	2			1									
	環境エネルギー論	1①	2				1								
	物理学Ⅱ	1②	2			1									
	ニーズ理解入門	1②	2	2		1									
	物理学Ⅲ	1③	2			1									
	欧州アート・デザイン論	1③	2									2			
	人間工学入門	1③	2										1		
	社会と科学論	1③	2				1								
	数理統計学	1④	2				1								
	データ分析	2①	2				1								
	グローバル社会理解Ⅰ	2③	2		2		1								
	グローバル社会理解Ⅱ	2④	2		2									1	
	AI基礎	3①	2				1								
小計(16科目)	-	-	18	14	0	4	3	0	0	0	0	4			
工学基礎科目	ものづくり基礎実習【※】	1①②	2				2		1	1	1				
	設計製図実習【※】	1①②	2			1					1	2			
	電気回路学	1②	2			1			1						
	計測工学	1②	2	2		1									
	機械基礎Ⅰ	1③	2			1						1			
	コンピュータ概論	1③	2			1			1				1		
	電子回路工学	1③	2		2	1			1						
	機械基礎Ⅱ	1④	2			1									
	情報理論	1④	2		2		1				1				
	技術者倫理	2①	2			1									
	プログラミング実習【※】	2①②	2			1	1						1		
	工業数学	2①②	2		2	1									
	情報工学	3①	2				1								
	材料工学	3①	2				1								
	振動工学	3①	2			1									
小計(15科目)	-	-	14	16	0	7	4	0	1	3	3				

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			基幹教員等の配置								
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	(助手を除く兼任) (兼任上)			
基礎科目	物理学Ⅰ	1①	2			1								
	化学基礎	1①②	2			1								
	微分積分学	1①②	2			1								
	線形代数学	1①②	2			1								
	環境エネルギー論	1①	2				1							
	物理学Ⅱ	1②	2			1								
	ニーズ理解入門	1②	2	2		1								
	物理学Ⅲ	1③	2			1								
	欧州アート・デザイン論	1③	2									2		
	人間工学入門	1③	2										1	
	社会と科学論	1③	2				1							
	数理統計学	1④	2				1							
	データ分析	2①	2				1							
	グローバル社会理解Ⅰ	2③	2		2		1							
	グローバル社会理解Ⅱ	2④	2		2									1
	AI基礎	3①	2				1							
小計(16科目)	-	-	18	14	0	4	3	0	0	0	4			
工学基礎科目	ものづくり基礎実習【※】	1①②	2				2		1	1	1			
	設計製図実習【※】	1①②	2			1					1	2		
	電気回路学	1②	2			1			1					
	計測工学	1②	2	2		1								
	機械基礎Ⅰ	1③	2			1							1	
	コンピュータ概論	1③	2			1			1					1
	電子回路工学	1③	2		2	1			1					
	機械基礎Ⅱ	1④	2			1								
	情報理論	1④	2		2		1			1				
	技術者倫理	2①	2			1								
	プログラミング実習【※】	2①②	2			1	1						1	
	工業数学	2①②	2		2	1								
	情報工学	3①	2				1							
	材料工学	3①	2				1							
	振動工学	3①	2			1								
小計(15科目)	-	-	14	16	0	7	4	0	1	3	3			

職業専門科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			基幹教員等の配置						
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員(助手を除く)兼任一兼任	
												教
専門基礎科目	自動車工学基礎実習【※】	1①	2			1				1	2	
	次世代モビリティ論	1④	2				1					
	センサー工学	1④	2			1						
	自動車工学	2①②	2			1						
	電気自動車構造解析実習【※】	2①②	2			2				1		
	電気機械工学基礎実験【※】	2①	2			1				1		
	自動車通信工学	2①	2			1						
	3DCAD演習【※】	2①	1							1		
	電池システム基礎	2②	2			2						
	モーター・インバータシステム基礎	2②	2			1						
	車体システム基礎	2②	2			1				1		
	自動運転システム基礎	2②	2			1						
	超小型モビリティ開発	2③	2	2			1					
	問題解決法	2③	2	2			1					
	電池システム実習 I【※】	2③④	2	2		2				1		
	モーター・インバータシステム基礎実習 I【※】	2③④	2	2		1	1	1	1			
	車体システム基礎実習【※】	2③④	2	2		1	1		1	1		
自動運転システム実習 I【※】	2③④	2	2		1			1	2			
電子制御工学	3①	2			2							
モデルベース開発 I	3①	2			1							
小計(20科目)	-	20	19	0	10	4	1	1	4	6		
専門発展科目	電池システム設計・試験法基礎	3④	2			1						
	電池化学応用	3④	2			2						
	電池システム実習 II【※】	3④	2			3			1			
	駆動システム設計製造試験法	3④	2			1						
	パワーエレクトロニクス	3④	2			1						
	モーター・インバータシステム実習 II【※】	3④	2			1	1	1	1			
	車体構造学	3④	2			1						
	車体システム設計製造試験法	3④	2			1				2		
	車体システム解析実習 I【※】	3④	2			1	1		1			
	自動運転におけるセンシング技術	3④	2			1				1		
	自動運転のための制御技術	3④	2			1				1		
	自動運転システム実習 II【※】	3④	2			1			1	2		
	電池システム実習 III【※】	4①	2			3			1			
	モーター・インバータシステム実習 III【※】	4①	2			1	1	1	1			
	車体システム解析実習 II【※】	4①	2			1	1		1			
	自動運転システム実習 III【※】	4①	2			1			1	2		
	電気自動車システム開発演習【※】	4②	2			1		1	1			
モデルベース開発 II	4②	2							1			
小計(18科目)	-	2	34	0	9	2	1	1	4	5		

職業専門科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			基幹教員等の配置						
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員(助手を除く)兼任一兼任	
												教
専門基礎科目	自動車工学基礎実習【※】	1①	2			1				1	2	
	次世代モビリティ論	1④	2				1					
	センサー工学	1④	2			1						
	自動車工学	2①②	2			1						
	電気自動車構造解析実習【※】	2①②	2			2				1		
	電気機械工学基礎実験【※】	2①	2			1				1		
	自動車通信工学	2①	2			1						
	3DCAD演習【※】	2①	1							1		
	電池システム基礎	2②	2			2						
	モーター・インバータシステム基礎	2②	2			1						
	車体システム基礎	2②	2			1				1		
	自動運転システム基礎	2②	2			1						
	超小型モビリティ開発	2③	2	2			1					
	問題解決法	2③	2	2			1					
	電池システム実習 I【※】	2③④	2	2		2				1		
	モーター・インバータシステム基礎実習 I【※】	2③④	2	2		1	1	1	1			
	車体システム基礎実習【※】	2③④	2	2		1	1		1	1		
自動運転システム実習 I【※】	2③④	2	2		1			1	2			
電子制御工学	3①	2			2							
モデルベース開発 I	3①	2			1							
小計(20科目)	-	20	19	0	10	4	1	1	4	6		
専門発展科目	電池システム設計・試験法基礎	3④	2			1						
	電池化学応用	3④	2			2						
	電池システム実習 II【※】	3④	2			3			1			
	駆動システム設計製造試験法	3④	2			1						
	パワーエレクトロニクス	3④	2			1						
	モーター・インバータシステム実習 II【※】	3④	2			1	1	1	1			
	車体構造学	3④	2			1						
	車体システム設計製造試験法	3④	2			1			1	2		
	車体システム解析実習 I【※】	3④	2			1	1		1			
	自動運転におけるセンシング技術	3④	2			1				1		
	自動運転のための制御技術	3④	2			1				1		
	自動運転システム実習 II【※】	3④	2			1			1	2		
	電池システム実習 III【※】	4①	2			3			1			
	モーター・インバータシステム実習 III【※】	4①	2			1	1	1	1			
	車体システム解析実習 II【※】	4①	2			1	1		1			
	自動運転システム実習 III【※】	4①	2			1			1	2		
	電気自動車システム開発演習【※】	4②	2			1		1	1			
モデルベース開発 II	4②	2							1			
小計(18科目)	-	2	34	0	9	2	1	1	4	5		

	授業科目の名称	配当年次	単位数			基幹教員等の配置						
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員(助手を除く)兼任・兼任	
												教
職業専門科目	専門選択科目	高分子工学	3①	2								1
	金属材料工学	3②	2									1
	知的財産権概論	3②	2									1
	モビリティデザイン論	3③	2									1
	品質管理	3③	2			1						
	5Gの科学	4①	2			1						
	MaaSを想定した交通政策論	4①	2								1	
	ジョルジェット・ジウジアーロの工業デザイン論	4①	2									2
	サービス工学	4②	2				1					
	電動モビリティを想定したサービス論	4②	2									2
小計(10科目)	-	0	20	0	2	1	0	0	0	0	9	
臨地実務実習	臨地実務実習Ⅰ【臨】	1②	1			12	3	1	1			
	臨地実務実習Ⅱ【臨】	2④	9			12	3	1	1			
	臨地実務実習Ⅲ【臨】	3②③	10			12	3	1	1			
	小計(3科目)	-	20	0	0	12	3	1	1	0	0	
展開科目	文書表現法	1②	2					1				1
	プレゼンテーション基礎	1③	2					1				1
	労使関係論	1③	2									1
	アイデア思考法	1④	2									1
	製造とデザインのためのビジネス論Ⅰ	2①	2			1	1					
	システム思考論	2②	2									1
	広報活動論	2②	2			1						
	英語プレゼンテーション基礎	2③	2									2
	製造業経営論	2③	2									1
	製品とその利用に関する起業化論	2③	2			1	1					
	英語コミュニケーション	2④	2									1
	ビジネス英語	3①	2									1
	科学技術政策	3②	2			1						
	マネジメント論	3③	2									1
	製造とデザインのためのビジネス論Ⅱ	3③	2			1	1					
小計(15科目)	-	10	20	0	1	2	1	0	0	0	7	
総合科目	研究ゼミナールⅠ	1③④	1			11	5	2	1			
	研究ゼミナールⅡ	2①②	1			11	5	2	1			
	研究ゼミナールⅢ	2③④~3①	1			11	5	2	1			
	卒業研究Ⅰ	3④	1			10	5	2	1			
	卒業研究Ⅱ	4通	4			10	5	2	1			
小計(5科目)	-	8	0	0	11	5	2	1	0	0		
合計(102科目)	-	92	123	0	14	6	2	1	4	21		

	授業科目の名称	配当年次	単位数			基幹教員等の配置						
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員(助手を除く)兼任・兼任	
												教
職業専門科目	専門選択科目	高分子工学	3①	2								1
	金属材料工学	3②	2									1
	知的財産権概論	3②	2									1
	モビリティデザイン論	3③	2									1
	品質管理	3③	2			1						
	5Gの科学	4①	2			1						
	MaaSを想定した交通政策論	4①	2								1	
	ジョルジェット・ジウジアーロの工業デザイン論	4①	2									2
	サービス工学	4②	2				1					
	電動モビリティを想定したサービス論	4②	2									2
小計(10科目)	-	0	20	0	2	1	0	0	0	0	9	
臨地実務実習	臨地実務実習Ⅰ【臨】	1②	1			12	3	1	1			
	臨地実務実習Ⅱ【臨】	2④	9			12	3	1	1			
	臨地実務実習Ⅲ【臨】	3②③	10			12	3	1	1			
	小計(3科目)	-	20	0	0	12	3	1	1	0	0	
展開科目	文書表現法	1②	2					1				1
	プレゼンテーション基礎	1③	2					1				1
	労使関係論	1③	2									1
	アイデア思考法	1④	2									1
	製造とデザインのためのビジネス論Ⅰ	2①	2			1	1					
	システム思考論	2②	2									1
	広報活動論	2②	2			1						
	英語プレゼンテーション基礎	2③	2									2
	製造業経営論	2③	2									1
	製品とその利用に関する起業化論	2③	2			1	1					
	英語コミュニケーション	2④	2									1
	ビジネス英語	3①	2									1
	科学技術政策	3②	2			1						
	マネジメント論	3③	2									1
	製造とデザインのためのビジネス論Ⅱ	3③	2			1	1					
小計(15科目)	-	10	20	0	1	2	1	0	0	0	7	
総合科目	研究ゼミナールⅠ	1③④	1			11	5	2	1			
	研究ゼミナールⅡ	2①②	1			11	5	2	1			
	研究ゼミナールⅢ	2③④~3①	1			11	5	2	1			
	卒業研究Ⅰ	3④	1			10	5	2	1			
	卒業研究Ⅱ	4通	4			10	5	2	1			
小計(5科目)	-	8	0	0	11	5	2	1	0	0		
合計(102科目)	-	92	123	0	14	6	2	1	4	21		

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】

次により必修科目92単位、選択必修科目8単位以上を修得すること。卒業単位数は、以下の要件を満たす合計128単位以上とする。

1.基礎科目 20 単位以上

一必修科目18単位を含む、合計20単位以上

2.職業専門科目 80単位以上(臨地実務実習科目 20単位を含む。)

一必修科目56単位、選択必修科目8単位以上を含む、合計80単位以上

選択必修科目は以下のとおりとする。

【専門基礎科目】電池システム実習Ⅰ、モーター・インバータシステム実習Ⅰ、車体システム基礎実習、自動運転システム実習Ⅰの中から1科目以上2単位以上

なお、ここで選択・履修した科目によって、次の専門発展科目の分野選択が制約されることとなる。

【専門発展科目】次の4分野の中で、3年次の4学期に選択した分野の科目を4単位。なお、選択した分野以外の分野の科目をも履修し単位を修得した場合は、選択科目の単位とみなし卒業に必要な単位数に含めることができる。

〔電池分野〕電池化学応用、電池システム実習Ⅱ

〔モーター・インバータ分野〕パワーエレクトロニクス、モーター・インバータシステム実習Ⅱ

〔車体分野〕車体構造学、車体システム解析実習Ⅰ

〔自動運転分野〕自動運転におけるセンシング技術、自動運転システム実習Ⅱ

【専門選択科目】次の科目群の中で、自身のキャリアプランに応じて選択し、1科目以上2単位以上

なお、2科目以上履修し単位を修得した場合は、選択科目の単位とみなし卒業に必要な単位数に含めることができる。

〔車体・部材の材料系知識〕金属材料工学、高分子工学

〔工業デザイン系知識〕ジョルジェット・ジウジアーロの工業デザイン論、モビリティデザイン論

〔自動車システム・環境系知識〕MaaSを想定した交通政策論、5Gの科学

〔権利・品質系知識〕知的財産権概論、品質管理

〔サービス系知識〕カーシェア工学、電動モビリティを想定したサービス論

3.展開科目 20 単位以上

一必修科目 10単位を含む、合計20単位以上

4.総合科目 8単位(必修)

5.実験・実習科目から40単位以上(臨地実務実習科目 20単位を含む。)

履修登録の上限: 30単位/半期(1・2学期又は3・4学期を指す。以下同じ。)、年間60単位

なお、一定の要件を満たす場合には、当該上限を超えた履修登録を認める場合がある。その場合、学生が1・2学期又は3・4学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は34単位/半期、年間68単位とする。

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】

次により必修科目92単位、選択必修科目8単位以上を修得すること。卒業単位数は、以下の要件を満たす合計128単位以上とする。

1.基礎科目 20 単位以上

一必修科目18単位を含む、合計20単位以上

2.職業専門科目 80単位以上(臨地実務実習科目 20単位を含む。)

一必修科目56単位、選択必修科目8単位以上を含む、合計80単位以上

選択必修科目は以下のとおりとする。

【専門基礎科目】電池システム実習Ⅰ、モーター・インバータシステム実習Ⅰ、車体システム基礎実習、自動運転システム実習Ⅰの中から1科目以上2単位以上

なお、ここで選択・履修した科目によって、次の専門発展科目の分野選択が制約されることとなる。

【専門発展科目】次の4分野の中で、3年次の4学期に選択した分野の科目を4単位。なお、選択した分野以外の分野の科目をも履修し単位を修得した場合は、選択科目の単位とみなし卒業に必要な単位数に含めることができる。

〔電池分野〕電池化学応用、電池システム実習Ⅱ

〔モーター・インバータ分野〕パワーエレクトロニクス、モーター・インバータシステム実習Ⅱ

〔車体分野〕車体構造学、車体システム解析実習Ⅰ

〔自動運転分野〕自動運転におけるセンシング技術、自動運転システム実習Ⅱ

【専門選択科目】次の科目群の中で、自身のキャリアプランに応じて選択し、1科目以上2単位以上

なお、2科目以上履修し単位を修得した場合は、選択科目の単位とみなし卒業に必要な単位数に含めることができる。

〔車体・部材の材料系知識〕金属材料工学、高分子工学

〔工業デザイン系知識〕ジョルジェット・ジウジアーロの工業デザイン論、モビリティデザイン論

〔自動車システム・環境系知識〕MaaSを想定した交通政策論、5Gの科学

〔権利・品質系知識〕知的財産権概論、品質管理

〔サービス系知識〕カーシェア工学、電動モビリティを想定したサービス論

3.展開科目 20 単位以上

一必修科目 10単位を含む、合計20単位以上

4.総合科目 8単位(必修)

5.実験・実習科目から40単位以上(臨地実務実習科目 20単位を含む。)

履修登録の上限: 30単位/半期(1・2学期又は3・4学期を指す。以下同じ。)、年間60単位

なお、一定の要件を満たす場合には、当該上限を超えた履修登録を認める場合がある。その場合、学生が1・2学期又は3・4学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は34単位/半期、年間68単位とする。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「基幹教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」としてください。
 - ・ 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準の適用以前は兼任、兼任教員)が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「認可時又は届出時」の「主要授業科目」欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任・兼任」としてください。その上で、各年度については、「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)」数は、認可時又は届出時の「専任教員」数との比較において変更となっている箇所、「基幹教員以外の教員(助手を除く)(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員以外の教員(助手を除く)」)」数は、認可時又は届出時の「兼任・兼任」数との比較において変更となっている箇所を**太字の赤字**としてください。
 (専任教員から基幹教員に変更したことをもって太字の赤字とする必要はありません。)
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

特になし。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、基幹教員等の配置の変更、主要授業科目の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。また、改正後大学設置基準(令和4年10月1日施行)の適用により、専任教員から基幹教員に変更した場合(例:「専任教員 教授1」から「基幹教員 教授1」に変更)や、兼任・兼任教員から基幹教員以外の教員に変更した場合(例:「兼任教員1」から「基幹教員以外の教員1」に変更)については、記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。
 - ・ 「基幹教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」としてください。
 - ・ 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準の適用以前は兼任、兼任教員)が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「認可時又は届出時」の「主要授業科目」欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任・兼任」としてください。その上で、各年度については、「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)」数は、認可時又は届出時の「専任教員」数との比較において変更となっている箇所、「基幹教員以外の教員(助手を除く)(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員以外の教員(助手を除く)」)」数は、認可時又は届出時の「兼任・兼任」数との比較において変更となっている箇所を**太字の赤字**としてください。
 (専任教員から基幹教員に変更したことをもって太字の赤字とする必要はありません。)
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
40 科目	62 科目	0 科目	102 科目	40 科目 []	62 科目 []	0 科目 []	102 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{102} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	借上面積:20,096.98㎡ 借用期間:30年 共用:飯豊町起業支援施設(実習施設)		
	校舎敷地	17,335.28㎡	0㎡	0㎡	17,335.28㎡			
	そ の 他	2,761.70㎡	㎡	㎡	2,761.70㎡			
	合 計	20,096.98㎡	㎡	㎡	20,096.98㎡			
(2) 校 舎	専 用	5,076.08㎡	443.36㎡	0㎡	5,519.44㎡	借上面積:3,100.58㎡ 借用期間:30年 共用:飯豊町起業支援施設(実習施設)		
	(4,674.08㎡)	(443.36㎡)	(0㎡)	5,117.44㎡				
(3)教室・教員研究室		教 室	23室	教員研究室	18室	大学全体		
(4) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書		学術雑誌		機 械 ・ 器 具	標 本	
		〔うち外国書〕	電子図書	〔うち外国書〕	電子ジャーナル			
	冊	〔うち外国書〕	種	〔うち外国書〕	点	点		
	自動車システム工	11,000 [1,600] (7,516 [665])	0 [0] (0 [0])	1,300 [16] (1,127 [0])	24 [16] (0 [0])	320 (137)	250 (248)	
計	11,000 [1,800] (5,724 [665])	0 [0] (0 [0])	24 [16] (24 [16])	24 [16] (0 [0])	320 (137)	250 (248)		
(5) スポーツ施設等	スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		体育館は近隣の施設を借用する。	
	0㎡		0㎡		0㎡			
(6) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	200千円	200千円	図書購入費	433千円	600千円	50千円
	共同研究費等	2,000千円	5,000千円	設備購入費	66,632千円	70,465千円	0千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	1,580千円	1,340千円	1,340千円	1,340千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入、資産運用収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)又は(その1の3)に準じて作成してください。
(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 「(4)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 高等専門学校については「(3)教室・教員研究室」欄の「教員研究室」は記載不要です。
 - ・ 国立大学については「(6)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 の 名 称		電動モビリティシステム専門職大学								平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	1	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	1	1	1	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考				
電気自動車システム工学部	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度	-					
電気自動車システム工学科	4	40	0	160	-	0.08	-	0.02	-	-	令和5	-					
大学全体	4	40	0	160	-	-	-	-	-	-	-	山形県西置賜郡飯豊町大学教生1725-2					

大学 の 名 称		〇〇短期大学								平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数		平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数		収容定員充足率0.7倍以下の学科数		収容定員充足率1.15倍以上の学科数	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考				
該当なし	年	人	年次人	人		倍		倍	倍	年度	年度						

大学 の 名 称		〇〇高等専門学校								平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数		平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数		収容定員充足率0.7倍以下の学科数		収容定員充足率1.15倍以上の学科数	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考				
該当なし	年	人	年次人	人		倍		倍	倍	年度	年度						

(注)・本調査の対象となっている大学短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとに、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教育研究実施組織の状況

<電気自動車システム工学部 電気自動車システム工学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	高橋 久 (70) <令和5年4月> 博士(工学)
		電気機械工学基礎実験 電子制御工学 電気回路学 電子回路工学 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	中島 孝之 (66) <令和5年4月> 工学修士
		化学基礎 技術者倫理 電池化学応用 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	城ヶ崎 寛 (59) <令和5年4月> 博士(システム情報科学)
		自動車通信工学 プログラミング実習 5Gの科学 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	飯倉 善和 (71) <令和5年4月> 工学博士
		線形代数学 微分積分学 物理学Ⅰ 物理学Ⅲ コンピュータ概論 工業数学

【令和5年度】

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
基 (主 専)	教授	高橋 久 (70) <令和5年4月> 博士(工学)
		電気機械工学基礎実験 電子制御工学 電気回路学 電子回路工学 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
基 (主 専)	教授	中島 孝之 (66) <令和5年4月> 工学修士
		化学基礎 技術者倫理 電池化学応用 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
基 (主 専)	教授	城ヶ崎 寛 (59) <令和5年4月> 博士(システム情報科学)
		自動車通信工学 プログラミング実習 5Gの科学 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
基 (主 専)	教授	飯倉 善和 (71) <令和5年4月> 工学博士
		線形代数学 微分積分学 物理学Ⅰ 物理学Ⅲ コンピュータ概論 工業数学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大崎 喜久 (71) 〈令和5年4月〉 工学修士
		機械基礎Ⅱ 車体システム基礎 車体構造学 品質管理 電気自動車構造解析実習 車体システム解析実習Ⅰ 車体システム解析実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	館内 端 (76) 〈令和5年4月〉 工学士
		社会と科学論 広報活動論 超小型モビリティ開発 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	白田 正樹 (42) 〈令和5年4月〉 工学修士
		情報理論 プログラミング実習 情報工学 数理統計学 データ分析 AI基礎 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	小口 貴幸 (37) 〈令和5年4月〉 工学士
		製品とその利用に関する起業化論 製造とデザインのためのビジネス論Ⅰ 製造とデザインのためのビジネス論Ⅱ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	熊谷 直武 (77) 〈令和5年4月〉 工学士
		車体システム基礎実習 車体システム設計製造試験法 車体システム解析実習Ⅰ 車体システム解析実習Ⅱ ものづくり基礎実習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

教員区分	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
基(主専)	教授	大崎 喜久 (71) 〈令和5年4月〉 工学修士
		機械基礎Ⅱ 車体システム基礎 車体構造学 品質管理 電気自動車構造解析実習 車体システム解析実習Ⅰ 車体システム解析実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
基(主専)	准教授	館内 端 (76) 〈令和5年4月〉 工学士
		社会と科学論 広報活動論 超小型モビリティ開発 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
基(主専)	准教授	白田 正樹 (42) 〈令和5年4月〉 工学修士
		情報理論 プログラミング実習 情報工学 数理統計学 データ分析 AI基礎 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
基(主専)	准教授	小口 貴幸 (37) 〈令和5年4月〉 工学士
		製品とその利用に関する起業化論 製造とデザインのためのビジネス論Ⅰ 製造とデザインのためのビジネス論Ⅱ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
基(主専)	准教授	熊谷 直武 (77) 〈令和5年4月〉 工学士
		車体システム基礎実習 車体システム設計製造試験法 車体システム解析実習Ⅰ 車体システム解析実習Ⅱ ものづくり基礎実習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	川端 由美 (52) <令和5年4月> 工学修士
		環境エネルギー論 材料工学 サービス工学 問題解決法 次世代モビリティ論 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	講師	小野寺大輔 (35) <令和5年4月> 経営学士
		製品とその利用に関する起業化論 製造とデザインのためのビジネス論Ⅰ 製造とデザインのためのビジネス論Ⅱ 文書表現法 プレゼンテーション基礎 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
実専	教授	唐鎌 圭彦 (64) <令和5年4月> 経済学修士
		ニーズ理解入門 グローバル社会理解Ⅰ 科学技術政策 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
実専	教授	牛田 善久 (74) <令和5年4月> 工学修士
		電池システム実習Ⅱ 電池システム実習Ⅲ 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ
実専	講師	内山 英和 (65) <令和5年4月> 工学士
		モーター・インバータシステム実習Ⅰ モーター・インバータシステム実習Ⅱ モーター・インバータシステム実習Ⅲ 電気自動車システム開発演習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
基(主専)	准教授	川端 由美 (52) <令和5年4月> 工学修士
		環境エネルギー論 材料工学 サービス工学 問題解決法 次世代モビリティ論 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
基(主専)	講師	小野寺大輔 (35) <令和5年4月> 経営学士
		製品とその利用に関する起業化論 製造とデザインのためのビジネス論Ⅰ 製造とデザインのためのビジネス論Ⅱ 文書表現法 プレゼンテーション基礎 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
実基(主専)	教授	唐鎌 圭彦 (64) <令和5年4月> 経済学修士
		ニーズ理解入門 グローバル社会理解Ⅰ 科学技術政策 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
実基(主専)	教授	牛田 善久 (74) <令和5年4月> 工学修士
		電池システム実習Ⅱ 電池システム実習Ⅲ 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ
実基(主専)	講師	内山 英和 (65) <令和5年4月> 工学士
		モーター・インバータシステム実習Ⅰ モーター・インバータシステム実習Ⅱ モーター・インバータシステム実習Ⅲ 電気自動車システム開発演習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	助教	千明 一雅 (66) <令和5年4月> 工学士
		電気回路学 コンピュータ概論 モーター・インバータシステム 実習Ⅰ モーター・インバータシステム 実習Ⅱ モーター・インバータシステム 実習Ⅲ 電子回路工学 電気機械工学基礎実験 ものづくり基礎実習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
実(研)	教授	尾形 永 (66) <令和5年4月> 工学修士
		駆動システム設計製造試験法 計測工学 電子制御工学 モデルベース開発Ⅰ 振動工学 センサー工学 電気自動車システム開発演習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
実(研)	教授	吉武 秀哉 (61) <令和5年4月> 博士(理学)
		電池システム基礎 電池システム設計・試験法基礎 電池システム実習Ⅰ 電気自動車構造解析実習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
実(研)	教授	松尾 博 (62) <令和5年4月> 博士(工学)
		電池システム実習Ⅰ 電池システム実習Ⅱ 電池システム実習Ⅲ 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実基(主専)	助教	千明 一雅 (66) <令和5年4月> 工学士
		電気回路学 コンピュータ概論 モーター・インバータシステム 実習Ⅰ モーター・インバータシステム 実習Ⅱ モーター・インバータシステム 実習Ⅲ 電子回路工学 電気機械工学基礎実験 ものづくり基礎実習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
実研基(主)	教授	尾形 永 (66) <令和5年4月> 工学修士
		駆動システム設計製造試験法 計測工学 電子制御工学 モデルベース開発Ⅰ 振動工学 センサー工学 電気自動車システム開発演習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
実研基(主)	教授	吉武 秀哉 (61) <令和5年4月> 博士(理学)
		電池システム基礎 電池システム設計・試験法基礎 電池システム実習Ⅰ 電気自動車構造解析実習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
実研基(主)	教授	松尾 博 (62) <令和5年4月> 博士(工学)
		電池システム実習Ⅰ 電池システム実習Ⅱ 電池システム実習Ⅲ 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実(研)	教授	金子 郁枝 (69) <令和5年4月> 博士(薬学) 博士(工学)
		電池システム基礎 電池化学応用 電池システム実習Ⅱ 電池システム実習Ⅲ 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
実(研)	教授	古川 修 (75) <令和5年4月> 博士(工学)
		自動運転システム基礎 自動運転システム実習Ⅰ 自動運転におけるセンシング技術 自動運転のための制御技術 自動運転システム実習Ⅱ 自動運転システム実習Ⅲ 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
実み	教授	澤瀬 薫 (60) <令和5年4月> 博士(工学)
		自動車工学基礎実習 設計製図実習 機械基礎Ⅰ 自動車工学 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ
実み	教授	新井 英雄 (60) <令和5年4月> 工学修士
		物理学Ⅱ モーター・インバータシステム基礎 パワーエレクトロニクス 車体システム基礎実習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ
実み	准教授	柳原 健也 (53) <令和5年4月> 工学修士
		ものづくり基礎実習 モーター・インバータシステム実習Ⅰ モーター・インバータシステム実習Ⅱ モーター・インバータシステム実習Ⅲ 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ

教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実研基(主)	教授	金子 郁枝 (69) <令和5年4月> 博士(薬学) 博士(工学)
		電池システム基礎 電池化学応用 電池システム実習Ⅱ 電池システム実習Ⅲ 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
実研基(主)	教授	古川 修 (75) <令和5年4月> 博士(工学)
		自動運転システム基礎 自動運転システム実習Ⅰ 自動運転におけるセンシング技術 自動運転のための制御技術 自動運転システム実習Ⅱ 自動運転システム実習Ⅲ 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ 研究ゼミナールⅠ 研究ゼミナールⅡ 研究ゼミナールⅢ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
実み基(専他)	教授	澤瀬 薫 (60) <令和5年4月> 博士(工学)
		自動車工学基礎実習 設計製図実習 機械基礎Ⅰ 自動車工学 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ
実み基(専他)	教授	新井 英雄 (60) <令和5年4月> 工学修士
		物理学Ⅱ モーター・インバータシステム基礎 パワーエレクトロニクス 車体システム基礎実習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ
実み基(専他)	准教授	柳原 健也 (53) <令和5年4月> 工学修士
		ものづくり基礎実習 モーター・インバータシステム実習Ⅰ モーター・インバータシステム実習Ⅱ モーター・インバータシステム実習Ⅲ 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	清水 浩 (75) 〈令和5年4月〉 工学博士
		文書表現法 プレゼンテーション基礎 英語プレゼンテーション基礎
兼任	講師	前田 紀子 (46) 〈令和5年4月〉 修士(国際文化)
		英語コミュニケーション ビジネス英語 英語プレゼンテーション基礎
兼任	講師	大久保 明子 (62) 〈令和5年4月〉 短期大学士
		設計製図実習 3DCAD演習
兼任	講師	高村 真澄 (57) 〈令和5年4月〉 博士(工学)
		グローバル社会理解Ⅱ 高分子工学 マネジメント論
兼任	講師	橋本 尚久 (45) 〈令和5年4月〉 博士(政策・メディア)
		自動運転システム実習Ⅰ 自動運転システム実習Ⅱ 自動運転システム実習Ⅲ
兼任	講師	江本 聞夫 (59) 〈令和5年4月〉 工学士
		車体システム基礎 車体システム設計製造試験法 アイデア思考法 モビリティデザイン論
兼任	講師	岡田 宏之 (70) 〈令和5年4月〉 工学修士
		知的財産権概論
兼任	講師	赤間 章英 (31) 〈令和5年4月〉 博士(学術)
		人間工学入門
兼任	講師	大前 学 (50) 〈令和5年4月〉 博士(工学)
		自動運転システム実習Ⅰ 自動運転におけるセンシング技術 自動運転のための制御技術 自動運転システム実習Ⅱ 自動運転システム実習Ⅲ
兼任	講師	福本 雅之 (42) 〈令和5年4月〉 博士(環境学)
		MaaSを想定した交通政策論

教員区分	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
その他	教授	清水 浩 (75) 〈令和5年4月〉 工学博士
		文書表現法 プレゼンテーション基礎 英語プレゼンテーション基礎
その他	講師	前田 紀子 (46) 〈令和5年4月〉 修士(国際文化)
		英語コミュニケーション ビジネス英語 英語プレゼンテーション基礎
その他	講師	大久保 明子 (62) 〈令和5年4月〉 短期大学士
		設計製図実習 3DCAD演習
その他	講師	高村 真澄 (57) 〈令和5年4月〉 博士(工学)
		グローバル社会理解Ⅱ 高分子工学 マネジメント論
その他	講師	橋本 尚久 (45) 〈令和5年4月〉 博士(政策・メディア)
		自動運転システム実習Ⅰ 自動運転システム実習Ⅱ 自動運転システム実習Ⅲ
その他	講師	江本 聞夫 (59) 〈令和5年4月〉 工学士
		車体システム基礎 車体システム設計製造試験法 アイデア思考法 モビリティデザイン論
その他	講師	岡田 宏之 (70) 〈令和5年4月〉 工学修士
		知的財産権概論
その他	講師	赤間 章英 (31) 〈令和5年4月〉 博士(学術)
		人間工学入門
その他	講師	大前 学 (50) 〈令和5年4月〉 博士(工学)
		自動運転システム実習Ⅰ 自動運転におけるセンシング技術 自動運転のための制御技術 自動運転システム実習Ⅱ 自動運転システム実習Ⅲ
その他	講師	福本 雅之 (42) 〈令和5年4月〉 博士(環境学)
		MaaSを想定した交通政策論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	音部 昌宏 (75) ＜令和5年4月＞ 法学士
		労使関係論
兼任	講師	狼 嘉彰 (80) ＜令和5年4月＞ 工学博士
		システム思考論
兼任	講師	高橋 良定 (70) ＜令和5年4月＞ 工学士
		製造業経営論
兼任	講師	小松 隆 (75) ＜令和5年4月＞ 工学士
		車体システム基礎実習 車体システム設計製造試験法 金属材料工学 自動車工学基礎実習
兼任	講師	越湖 信一 (61) ＜令和5年4月＞ 法学士
		欧州アート・デザイン論 ジョルジェット・ジウジアーロ の工業デザイン論
兼任	講師	Fabrizio Giugiaro (58) ＜令和5年4月＞ Bachelor of Engineering (イタリア)
		欧州アート・デザイン論 ジョルジェット・ジウジアーロ の工業デザイン論
兼任	講師	近藤 康弘 (49) ＜令和5年4月＞ 高度専門士
		モデルベース開発Ⅱ
兼任	講師	三浦 隆未 (61) ＜令和5年4月＞ 修士(工学)
		機械基礎Ⅰ 設計製図実習 自動車工学基礎実習
兼任	講師	David Henry Syrad (65) ＜令和5年4月＞ Bachelor of Arts (イギリス)
		電動モビリティを想定したサー ビス論
兼任	講師	Markus Schädlich (54) ＜令和5年4月＞ Master of Engineering (ドイツ)
		電動モビリティを想定したサー ビス論
兼任	講師	宮下 康司 (65) ＜令和5年4月＞ 工学修士
		ものづくり基礎実習

教員 区分	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他	講師	音部 昌宏 (75) ＜令和5年4月＞ 法学士
		労使関係論
その他	講師	狼 嘉彰 (80) ＜令和5年4月＞ 工学博士
		システム思考論
その他	講師	高橋 良定 (70) ＜令和5年4月＞ 工学士
		製造業経営論
その他	講師	小松 隆 (75) ＜令和5年4月＞ 工学士
		車体システム基礎実習 車体システム設計製造試験法 金属材料工学 自動車工学基礎実習
その他	講師	越湖 信一 (61) ＜令和5年4月＞ 法学士
		欧州アート・デザイン論 ジョルジェット・ジウジアーロ の工業デザイン論
その他	講師	Fabrizio Giugiaro (58) ＜令和5年4月＞ Bachelor of Engineering (イタリア)
		欧州アート・デザイン論 ジョルジェット・ジウジアーロ の工業デザイン論
その他	講師	近藤 康弘 (53) ＜令和5年4月＞ 高度専門士
		モデルベース開発Ⅱ
その他	講師	三浦 隆未 (61) ＜令和5年4月＞ 修士(工学)
		機械基礎Ⅰ 設計製図実習 自動車工学基礎実習
その他	講師	David Henry Syrad (65) ＜令和5年4月＞ Bachelor of Arts (イギリス)
		電動モビリティを想定したサー ビス論
その他	講師	Markus Schädlich (54) ＜令和5年4月＞ Master of Engineering (ドイツ)
		電動モビリティを想定したサー ビス論
その他	講師	宮下 康司 (65) ＜令和5年4月＞ 工学修士
		ものづくり基礎実習

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)(その2の2)(その2の3)に準じて作成してください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く(改正後大学設置基準の適用以前は兼任、兼任教員)を含む。))を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 記載は、設置認可時又は届出時における「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」に記載されている「教員区分」(改正後大学設置基準の適用以前は「専任等区分」)の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和5年度】

特になし

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の基幹（専任）教員を変更する場合は**、当該基幹（専任）教員が授業を開始する前に必ず「基幹（専任）教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに基幹（専任）教員として授業等を担当することは出来ません**。
なお、改正前大学設置基準に基づいて認可を受けて設置された学部等が、改正後大学設置基準への適用のため、大学が基幹教員の要件を満たすと判断した「専任教員」を「基幹教員」とする場合は、AC教員審査を受審する必要はない扱いとしています。（改正後大学設置基準の適用にあたり、「基幹教員」の担当授業科目を追加する場合、「基幹教員」の担当授業科目の内容を変更するなど、AC教員審査の受審を求めている事由が発生する場合は、AC教員審査を受審する必要があります。）
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 基幹教員数等

(2)-① 設置基準上の必要基幹教員数

完成年度時における設置基準上の必要基幹教員数(α)	基幹教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	基幹教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要専ら当該学部等の教員研究に従事する必要基幹教員数(α)の4分の3以上)	基幹教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数	基幹教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数
19	10	15	8	4
名	名	名	名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一(2)及び第四十二条の三、専門職大学設置基準別表第一及び第三十五条、専門職短期大学設置基準別表第一及び第三十二条により算出される専任教員数を記入してください。

(2)-② 基幹教員等数【専門職大学等】

設置時の計画							現在(報告時)の状況								
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')		教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')			
14	6	2	1	23	4		14	6	2	1	23	2			
-14	-6	-2	-1	-23	-4		-14	-6	-2	-1	-23	-2			
基幹教員数(基)	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者(「基(生専)」及び「基(専)」の計)(β)	実務家基幹教員数(実基(実))	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者(「実(生専)」及び「実(専)」の計)(γ)	実務家基幹教員数(実研基(実))	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者(「実(生専)」及び「実(専)」の計)(δ)	みなし基幹教員数(実み基)	計(A" = α + β + γ)	基幹教員数(基)	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者(「基(生専)」及び「基(専)」の計)(β)	実務家基幹教員数(実基(実))	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者(「実(生専)」及び「実(専)」の計)(γ)	実務家基幹教員数(実研基(実))	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者(「実(生専)」及び「実(専)」の計)(δ)	みなし基幹教員数(実み基)	計(B" = α + β + γ)
11	11	4	4	5	3		20	11	11	4	4	5	5	3	20
-11	-11	-4	-4	-5	-3		-20	-11	-11	-4	-4	-5	-5	-3	-20
現在(報告時)の完成年度時の状況							現在(報告時)の完成年度時の計画								
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')		教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')			
14	6	2	1	23	2		14	7	2	3	26	4			
[]	[]	[]	[]	[]	[Δ2]		[]	[+1]	[]	[+2]	[+3]	[]			
基幹教員数(基)	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者(「基(生専)」及び「基(専)」の計)(β)	実務家基幹教員数(実基(実))	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者(「実(生専)」及び「実(専)」の計)(γ)	実務家基幹教員数(実研基(実))	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者(「実(生専)」及び「実(専)」の計)(δ)	みなし基幹教員数(実み基)	計(C" = α + β + γ)	基幹教員数(基)	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者(「基(生専)」及び「基(専)」の計)(β)	実務家基幹教員数(実基(実))	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者(「実(生専)」及び「実(専)」の計)(γ)	実務家基幹教員数(実研基(実))	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者(「実(生専)」及び「実(専)」の計)(δ)	みなし基幹教員数(実み基)	計(D" = α + β + γ)
11	11	4	4	5	3		20	11	11	6	6	6	6	3	23
[]	[]	[]	[]	[]	[]		[]	[]	[]	[+2]	[+2]	[+1]	[]	[]	[+3]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「設置時の計画」欄は「設置時の計画(改正前大学設置基準)」とした上で、「専任教員」及び「助手」の人数を記入してください。
 その際、「基幹教員数(基)」欄、「実務家基幹教員数(実基)」欄、「実務家基幹教員数(実研基)」欄、「みなし基幹教員数(実み基)」欄は、それぞれ「専任教員数(専)」欄、「実務家専任教員数(実専)」欄、「実務家専任教員数(実研)」欄、「実務家専任教員数(実専)」欄として、「実務家専任教員数(実専)」欄は実務家教員、「実務家専任教員数(実研)」欄は研究能力を併せ有する実務家教員、「みなし専任教員数」欄は「実務家専任教員数(実専)」に計上している実務家教員数のうち、みなし専任教員の教員数を記入してください。
 また、α、β、γ欄及び計(A"、B"、C"、D") 欄には「-」を記入してください。
 ・ 現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員数等を卒業済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)
 ・ 現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
81	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

【基幹教員全体】
 現在(報告時)の完成年度時の状況(C) = $\frac{23}{23} = 100$ %
 設置時の計画(A)

【基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者】
 現在(報告時)の完成年度時の状況(C") = $\frac{20}{20} = 100$ %
 設置時の計画(A")

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数 = $\frac{0}{23} = 0$ %
 現在(報告時)の状況(B)

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

現在(報告時)の完成年度時の状況(C') = $\frac{2}{4} = 50$ %
 設置時の計画(A')

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 基幹（専任）教員辞任等の理由

(3) - ① 基幹（専任）教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1		該当なし						
2								
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
〇〇	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	0	科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての基幹（専任）教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
 就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②基幹（専任）教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで基幹（専任）教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼任教員）が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 基幹（専任）教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし						
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
〇〇	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	0	科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての基幹（専任）教員について**、記入してください。
 （学年進行中に基幹教員の要件を満たさなくなったことにより、基幹教員でなくなった教員についても記入してください。）
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼任教員）が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
#VALUE!	人	必修	#VALUE!	科目	必修	##### 科目	必修	##### 科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	##### 科目	選択	##### 科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	##### 科目	自由	##### 科目
		計	#VALUE!	科目	計	##### 科目	計	##### 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{\#VALUE!}{\#VALUE!} = \#VALUE! \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した基幹（専任）教員等の状況

□人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した基幹（専任）教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した基幹（専任）教員に対する後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計					後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
〇〇	人	必修	#VALUE! 科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	#VALUE! 科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	#VALUE! 科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての基幹（専任）教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼任教員）が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|--|

(4) 基幹（専任）教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記（3）の基幹（専任）教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画	
認可時 (令和4年)	設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を着実に履行すること。また、学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究するという大学の目的、さらに専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	【認可】遵守事項 設置計画のとおりに着実に履行している。 開学前に、7回のFD研修を実施して、主に大学所属経験者を講師として、特に実務家教員に対し、模擬授業を含めた教授法の研修や学生理解のための研修を行い、教育水準の維持向上に努めた。 また、環境省等の研究プロジェクト申請や社会人向けのリスキニング教育構想にも取り組み、教員各自の研究シーズを駆使し一日でも早く社会に貢献できる取り組みを行っている。 加えて、学内組織体制として、内部質保証に関する規程、自己点検・評価規程を制定し、教育研究水準の向上を図ることとしている。	履行中	引き続き、設置計画を着実に履行する。 学内推進体制として制定した、内部質保証に関する規程及び自己点検・評価規程に基づき、教育研究のPDCAサイクルを継続して回し教育研究水準の向上を図っていく。 また、専門職大学としての目的を達成するため、より多くの人材を輩出できるよう学生確保に取り組み、広報委員会を中心とした広報活動を展開する。 研究面では、教員の研究シーズ集を作成し学外に周知し、共同研究等を通して、本学教員の知的資産の還元に資する。
認可時 (令和4年)	教育課程連携協議会の適切な運用等により、養成する人材像やディプロマポリシー、カリキュラムポリシー等に基づき、時宜に応じた教育課程が、将来にわたって持続的かつ効果的に編成されるとともに、その教育水準を一層向上させるよう努めること。	【認可】遵守事項 開学前の令和5年3月に第1回教育課程連携協議会を開催し、設置認可を受けた内容に沿って、大学の目的、人材養成像、三つのポリシー、教育課程等について説明し審議を行った。審議の中では、リカレント教育へのニーズが高いことやニーズを定義する力を養うカリキュラムが必要との意見を頂戴した。 上記審議内容は、学内で共有し教育内容に反映させることとしている。	履行中	学内推進体制として制定した、内部質保証に関する規程及び自己点検・評価規程に基づき、教育のPDCAサイクルを継続して回し教育水準の向上を図っていく。 また、教育課程連携協議会を毎年開催し、授業の実績の点検評価を含めた教育課程編成の点検評価を行い、次年度の教育課程編成に反映させていく。
認可時 (令和4年)	教員組織について、完成年度には60歳以上となる教員が全体の4分の3以上を占める計画となっているなど、教員組織の年齢構成に着しい偏りがあることから、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図る観点から、教員組織編成の将来構想について着実に実行すること。	【認可】遵守事項 認可申請書に記載した採用計画に則り、若手教員の採用を予定している。	履行中	認可申請書に記載した採用計画に則り、2024年度末までに1人、2025年度末までに1人及び2026年度末までに1人の若手教員の採用を予定している。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。
 - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<電気自動車システム工学部 電気自動車システム工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし	

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 令和5年4月19日教授会で、自己点検・評価委員会規程及びFD・SD委員会規程を承認し設置した。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 1学期が終了した後の令和5年7月に開催予定である。</p> <p>c 委員会の審議事項等 自己点検・評価委員会では点検・評価項目を確定する。FD・SD委員会では開学前に実施した研修の検証及び年度実施計画を決定する。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 開学前に以下のFD・SD研修会を実施した。 ・ 教育課程の共通理解 ・ 教授法の研修 ・ 入試実施、学生理解、厚生補導 等</p> <p>b 実施方法 対面形式で、主に大学教員経験者を講師として実施した。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） 第1回FD・SD研修 9月24日、25日（教員27人） 設置認可申請書の人材養成、教育課程等の情報共有、教授法の提案、入試実施方法の共有等 第2回FD・SD研修 10月8日、9日（教員22人） 教授法の研修（模擬授業を含む。）、実習教育の研修、入試実施方法の研修等 第3回FD研修 10月22日、23日（教員15人） 教授法の研修（模擬授業を含む。）、面接試験シミュレーション研修等 第4回FD研修 11月5日（教員16人） 教授法の研修（模擬授業を含む。）、教育の質向上のためのシステム概要研修等 第5回FD研修 12月3日（教員16人） 外部講師による講義技術研修その1 第6回FD研修 12月10日（教員13人） 外部講師による講義技術研修その2 第7回FD研修 1月7日（教員16人） 講義間の連携、外部講師によるハラスメント防止等学生理解研修</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 上記7回の開学前研修を踏まえ、令和5年4月から授業を実施してる。1学期終了後に検証等を開始する。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期 実施予定（10月初旬の第2学期終了時）</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 個人が特定されない集計データを基に、学生（紙による周知）、教員へは教授会において共有する。</p>

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

<p>① 体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>設置認可と同時に各学外委員に認可を受けた旨を通知するとともに、第1回委員会を3月に開催する旨を予告した。</p> <p>令和5年1月に、各委員に3月10日に開催する旨を通知した。</p> <p>(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)</p> <p>b 委員会の開催状況(回数や開催日など)</p> <p>第1回(令和5年3月10日)</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>協議事項: 電動モビリティシステム専門職大学の教育課程について</p> <p>d その他</p> <p>② 審議状況</p> <p>a 審議した内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ 学部長から、設置認可を受けた内容に沿って、大学の目的、人材養成像、三つのポリシー、教育課程等について説明の後、概ね以下のような協議を行った。○ 1年次から研究ゼミナールが設定されているのは非常に良いと思う。○ 企業における人材育成に費やす時間確保が難しい。リカレント教育に対応していく予定はあるか。○ 開学後にリカレント教育やリスキニング教育を設定することを考えている。学生には企業に就職後直ぐに専門的な会話ができる実践的な力を持った学生を育成していく。○ ニーズを定義する力を養うカリキュラムがあればよい。・ ニーズ解析やプレゼンテーション能力を養う専門科目を設定している。当該科目や研究ゼミナール等で教育内容にニーズ定義を取り入れて教育していく。 <p>b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況</p> <p>第1回協議会で意見があったニーズ定義について、ニーズ理解入門担当教員がシラバスの内容を検討中である。</p> <p>c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況</p> <p>第1回協議会の審議内容では、認可を受けた際の教育課程に反映すべき特段の意見がないことから、当初の教育課程どおりの教育を実施する。</p>

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>開学初年度のため、評価未実施</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>開学初年度のため、評価未実施。来年2月評価実施予定</p> <p>a 公表(予定)時期</p> <p>令和6年5月 公表予定</p> <p>b 公表方法</p> <p>大学ホームページ上に公開予定(令和6年5月を予定)</p> <p>③ 認証評価を受ける計画</p> <p>令和10年に評価機関(公益財団法人 日本高等教育評価機構)の評価を受ける予定</p>
--

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。